

## ●知床で実施するプログラム、ツアー企画の例（案）

これまで委員により出されたアイデアや事例調査から、知床での実施を想定したプログラム、ツアーの例（案）を検討・整理した。

### ① 樹木博士認定コース

アイデア・内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>知床自然観察教育林（知床 100 m<sup>2</sup>運動地に隣接。遺産区域、森林生態系保護地域保全利用地区）内に「樹木博士認定コース」を設置</li> <li>事前学習コースを認定コースの近隣に設置し事前学習を実施。 （例：近隣の学校の場合は一週間前に学習会を実施、修学旅行や団体旅行ではツアーの資料として前もって送付）</li> <li>知床森林センター、あるいは知床自然センターで配布されるテスト用紙を使ってチャレンジ</li> <li>終了後は両センターで「知床樹木博士認定証」を手渡す。</li> </ul>
仕組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>樹木のネームプレートは企業協賛。木道整備費用等もネームプレートと同一協賛とする。</li> <li>木道整備、プレートの取付作業は知床森林センターの指導のもと、当該企業社員やその家族によるボランティア作業も交えて行う。</li> <li>森林管理局では、プレスリリースなどを通じて広報</li> <li>観光ポイント、エコツアーのメニューとしてガイド協議会などにPR</li> <li>年に数回、森林センター主催による「樹木博士検定フェスティバル」を開催</li> </ul>
問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習コースは認定コースと同じ林相のエリアを設定する必要がある。</li> <li>何度も参加する方は、認定コースの樹種の位置を覚えてしまうため、複数の認定コースの設置が必要。</li> </ul>
主な参加対象	近隣の学校、修学旅行、団体旅行
事例等	【事例 1】駒ヶ岳・大沼森林環境保全ふれあいセンター「樹木博士認定コース」

#### 【事例 1】駒ヶ岳・大沼森林環境保全ふれあいセンター「樹木博士認定コース」

- 「樹木博士」とは：樹木の名前を葉や枝等から識別できる人のこと。識別できた樹木の本数で、段・級の認定を受ける。
- 樹木博士認定会の実施方法
  - ① 1週間程度前に当ふれあいセンターから事前学習資料（樹木図鑑）が送付され、自己学習。
  - ② 事前学習コースで各樹木の名前を葉や枝などに直接触れながらその特徴をつかみ覚える。
  - ③ 休憩・自己学習（15分程度）
  - ④ テストコースで、樹木を識別し、樹種名を当てるテストを実施
  - ⑤ 正解数により、段・級位を決定し、認定書を手渡す。



## ②知床講座と体験プログラムをセットにしたパッケージ

<p>アイデア・内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京農業大学オホーツクキャンパス（網走市）において、知床森林講座を開催し、森林づくりプログラム等とセットで展開</li> <li>学びのツアーとして、学識経験者や専門家等による講義や実習を体験できる。森林づくり体験のほか、知床の森林をテーマにさまざまな角度からその特徴や重要性を理解できる内容とする。 （例：生物多様性、野生動物管理、森林と地域の暮らし・文化、地球温暖化問題等）</li> <li>テーマ例：「森の恵みと循環のしくみ～知床の暮らしを考える」 …知床の森林と川、海（漁業）、農地（農業）を活用 〔構成〕①東京農業大学オホーツクキャンパスでの座学（知床の歴史、森林、地域の暮らし等について）②森林づくり体験・天然林散策③自然の恵みから得られる食品を味わう④森林の源流～河口までをめぐる～港の見学（漁師さんのお話、市場めぐり等）⑤カラフトマスの遡上観察 など</li> </ul>
<p>仕組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>首都圏の窓口として、東京農業大学世田谷校の社会人講座の受け入れも想定</li> <li>テーマによっては地域住民が講師として参加できるようなプログラムも検討し、地域ぐるみの取組への発展も期待</li> <li>先行事例（下記参照）J旅行会社によるシニアカレッジの場合、宿泊がホテル滞在などによって実施されていることから、各参加者あたりの単価が高い。このような仕組みにより、宿泊費や滞在費等で地元への還元が期待できる。</li> </ul>
<p>主な参加対象</p>	<p>シニア（道内および首都圏も想定）</p>
<p>事例等</p>	<p>【事例1】 J旅行会社 「シニアカレッジ」 【事例2】 東京農業大学 オホーツク実学市民公開講座</p>

### 【事例1】 J旅行会社 「シニアカレッジ」

- 向学心の高い全国の50歳以上を対象とした国立大学の生涯学習プログラムで、観光+大学教養講座のパッケージ
- J旅行会社と共同による開講。宿や交通、観光等の手配をJ旅行会社で請け負う。シニアサマーカレッジは会員制で、入会にあたって、50歳以上の方であれば学歴等の条件はなく、また入学試験等も一切なく、希望すれば入会することができる。
- 現在、全国7校の国立大学が参加。各地域の郷土色豊かな文化や伝統、自然、産業などを題材とした講義を展開
- 2週間程度のプログラムで、遠隔地からの参加者も多く、ホテルなどを宿泊場所として受講。シニアのロングステイにつながる。



### 【事例2】 東京農業大学 オホーツク実学市民公開講座

- 東京農業大学オホーツクキャンパス（網走市）では、オホーツク学を市民公開講座として三回実施。シンポジウム形式の座学と、エコツアーの実習がセット。3回のテーマは、それぞれ「海の生態系における『オホーツク学』の展開」「知床—世界遺産登録と環境共生・地域活性化の課題を展開して—」「流域と環境」であり、専門家をよんでいる。



### ③知床・森林版「環境貢献」ツアーの企画（1）

<p>アイデア・内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知床の森林づくりや環境に負荷をかけないツアースタイルを通じて知床・森林版の「環境貢献」ツアーを企画</li> <li>・ CO2削減する環境貢献の意識を「国民参加の森林づくり」につなげるツアー</li> </ul> <p>&lt;CO2ゼロ旅行（【事例1】）の森林版&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 旅行中の移動などで排出されるCO2量を計算</li> <li>② そのCO2を吸収するのに必要な育成林面積を算出</li> <li>③ その面積の育成林に必要な造林・育林経費を算出</li> <li>④ 旅行で排出するCO2を相殺するのに必要な分の森林づくりの経費を「森林づくり支援金」として旅行代金に上乗せして負担していただき、「森林づくり支援証書」を発行</li> </ol>
<p>仕組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 航空会社等と連携し、「環境貢献」プラン（CO2削減等）として展開</li> <li>・ 旅行会社が「旅行」を販売、専門家やシンクタンクなどにより「CO2排出量」を算出、育成林面積、造林・育林経費等の算出などを独自の手法で認証できる仕組みとする</li> </ul>
<p>問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CO2の排出量を算定する仕組み、依頼する機関等を検討する必要がある。</li> <li>・ CO2排出量に対する育林費用を算出する手法を独自に検討する必要がある。</li> </ul>
<p>主な参加対象</p>	<p>法人旅行・教育旅行等の団体旅行など（環境問題に貢献したいという潜在的意欲をもつ人へのアプローチ）</p>
<p>事例等</p>	<p>【事例1】 J旅行会社のKグループ会社 「エコツアーブランド「GREENSHOES」第1弾「CO2ゼロ旅行」</p> <p>【事例2】 高知県 協働の森づくり「CO2吸収証書」の発行</p>

#### 【事例1】 J旅行会社のKグループ会社 「エコツアーブランド「GREENSHOES」第1弾「CO2ゼロ旅行」

- ・ J旅行会社のKグループ会社では、エコツアーブランド「GREENSHOES（グリーンシューズ）」の第一弾商品として、関連会社の4社で共同開発した「CO2ゼロ旅行」を、法人旅行・教育旅行向け団体旅行を中心に販売。地球に優しい旅行のスタイルとして展開
- ・ 「CO2ゼロ旅行」は、旅行中の移動などで排出されるCO2を、その排出量に相当する自然エネルギーを購入することで、間接的に相殺する旅行
- ・ 例えば、東京発の新幹線で行く京都2泊3日旅行の場合
  - ① 参加者は、通常の旅行代金に加算して、500円程度のグリーン電力代金、1団体に付き1枚のグリーン電力証書発行代をK社に支払う。
  - ② K社が預かった代金は、グリーン電力発電の維持拡大に利用される。
  - ③ 参加者や団体には、旅行終了後も実施の記念としてグリーン電力証書とバッジが配布される。
- ・ パッケージツアーとしてK社が「CO2ゼロ旅行」を販売。環境エネルギー政策研究所がCO2排出量相殺に必要なグリーン電力量を算出し、自然エネルギー関連会社のC社が発行したグリーン電力証書を、音楽関連会社のS社が調達、提供するというしくみとなっている。

#### 【事例2】 高知県 協働の森づくり「CO2吸収証書」の発行

- ・ 高知県では、企業と地域とが協働して森林再生を図る「環境先進企業との協働の森づくり事業」を展開。森林によるCO2吸収量を増加させる取組として、「CO2排出権取引」の創設を視野に入れており、CO2吸収源としての森林整備（植林、下草刈り、間伐など）に対して、専門委員の審査によるCO2吸収量を県が独自に認証する「CO2吸収証書」を発行する。

#### ④知床・森林版「環境貢献」ツアーの企画（２）

アイデア・内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知床の森林づくりや環境に負荷をかけないツアースタイルを通じて知床・森林版の「環境貢献」ツアーを企画</li> <li>・ 一人一人の小さな環境配慮が「国民参加の森林づくり」を支援する仕組み</li> <li>① 知床への旅行者が旅行中に実施可能な環境貢献項目を記載したチェックシートを作成。 （例：山道のゴミ拾い、散策のルール遵守など、地元受け入れ側の課題に対応した項目を検討）</li> <li>② 旅行者はチェックシートの項目を実施することで、ポイントを獲得。獲得したポイントは1ポイント 20 円程度に換算し、森林づくりに関わる活動に寄付される。</li> </ul>
仕組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ チェックシートの作成やポイントに応じた寄付金などは、旅行関連企業による協賛とする。</li> <li>・ チェックシートは、ツアー旅行者や修学旅行者、ホテル利用客などに配布</li> <li>・ 記入後のチェックシートを提出してくれた方に、貢献度に応じて知床グッズやサポーター特典をプレゼント</li> </ul>
問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ チェックシートの作成や寄付等を行う体制について検討する必要がある。</li> </ul>
主な参加対象	<p>団体旅行者、一般観光客など（環境問題に貢献したいという潜在的意欲をもつ人へのアプローチ）</p>
事例等	<p>【事例１】 愛知県 「旅のハイブリッド」モニターツアー 【事例２】 K信用金庫「環境配慮型の定期積金」販売</p>

#### 【事例１】愛知県 「旅のハイブリッド」モニターツアー

- ・ 愛知県観光協会が同県と共同で旅行をしながら環境保護や地域文化に貢献する「旅のハイブリッド」の有料モニターツアーを実施。レジ袋を減らしたショッピングや海岸清掃といった体験を通じて旅行者はエコポイントを獲得。獲得したエコポイントは1ポイント=20円に換算し、棚田保全活動や森林間伐、コノハズクの保護など旅行者が希望する活動に寄付される。

#### 【事例２】K信用金庫「環境配慮型の定期積金」販売

- ・ 契約者に日常生活で二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の排出削減を求める環境配慮型の定期積金（一般家庭版、事業所版）を販売。契約者に対し、「テレビなど家電製品の主電源を切った」「自動車でなく公共交通や徒歩で出かけた」など15項目からなる1週間分のチェックシートを配布し、各項目ごとに実践すると1週間でのおよそのCO<sub>2</sub>削減量がわかる。記入後のシートを持ち込むとエコバックなど環境配慮型製品がプレゼントされる。

## ⑤森林づくり体験プログラム・森林を楽しむプログラム

<p>アイデア・内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 団体旅行のフリータイム等におけるオプションのプログラムとして提供</li> <li>①植樹が可能なエリア：植樹体験とその後の下刈り等保育作業の体験活動を継続的に実施し、その都度、作業の履歴を記念プレートとして設置。保育作業の必要性も併せて学習する。</li> <li>②保育が必要な人工林：枝打ちの必要性を学習した後に、枝打ち体験を実施。作業終了後は、その枝を使用したバードコールを作り、記念品として持ち帰る。</li> <li>③エゾシカ被害エリア：エゾシカの生態やエゾシカ被害について学習した後に、エゾシカ防除資材設置体験を実施。作業実施後は、エゾシカの角を使用したキーホルダーを作り、記念品として持ち帰る。</li> <li>④入林しやすい人工林：森の健康診断として人工林の調査体験（直径、樹高、密度、樹種など）を実施するとともに将来の森をイメージできる天然林の森林を散策。調査の結果報告書は、希望者に販売。</li> </ul>
<p>仕組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 団体旅行の自由時間のオプションプログラムとして提供、もしくは、団体旅行のプログラムに組み込む。</li> <li>・ 森林施業などを指導できる人材を地元で育成</li> <li>・ エゾシカの角はボランティアで拾って収集</li> <li>・ 森の健康診断で販売した報告書の売り上げの一部は、森林づくりに寄付</li> </ul>
<p>主な参加対象</p>	<p>一般観光客、団体旅行客、修学旅行など</p>
<p>事例等</p>	<p>【事例1】 北海道 野幌森林づくり塾 【事例2】 愛知県 矢作川森の健康診断</p>

### 【事例1】北海道 野幌森林づくり塾（2005年3月）

- ・ 枝打ち体験後に、その落とした枝や、その他いろんな樹種の枯れ枝を採取し、バードコールづくりを行った。
- ・ 終了式では、塾生に修了証書を授与

様々な木、樹種に触れ、樹皮をフロッタージュ（こすり絵）したり冬芽をスケッチして、野幌の樹の図鑑をつくり、木の名前を勉強



### 【事例2】愛知県 矢作川森の健康診断

- ・ 年に一度6月頃、独自の調査方法で、人工林を調査。
- ・ 1チーム5-8名で、チームリーダーは森林ボランティアが、サブリーダーに自然観察サポーターと地元サポーターがつき、林業の話や昆虫や野鳥観察なども交えて楽しく科学的に実施
- ・ 決められた山林で、簡単な道具を使って、人工林の混み具合、植物の多様性、土壌の豊かさなどを計測・観察する（一ヶ所半日程度）。
- ・ 診断結果は研究者グループが集計分析し、誰でもわかる報告書にまとめ、報告会で発表する。報告書には参加者の氏名や感想なども掲載